



株主のみなさまへ

第107期 中間報告書

平成20年4月1日～平成20年9月30日

子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設

事業の概況



会長 野村 哲也



社長 宮本 洋一

株主の皆様には、日頃、当社グループの事業活動に格別のご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

第107期（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）上半期の、当社グループの業績及び活動の概況についてご報告申し上げます。

当上半期の連結業績

当上半期は、世界経済の減速、資源・食糧価格高の影響などから、設備投資が減少し、個人消費も低調に推移するなど、景気は停滞の度合いを強めました。

建設業界においては、官公庁工事は大型土木工事の出件が増加しましたが、民間工事は不動産市況の悪化、マンション販売の低迷などから減少傾向で推移し、業界全体の受注高は、前年同期を下回る水準で推移しました。加えて、熾烈な受注競争が続く中、原材料コストが高騰し、工事利益の確保に一層の努力を要するなど、経営環境は一段と厳しさを増しました。

このような状況のもと、当上半期の売上高は、工事進行基準を適用したことに伴う完成工事高の増加により、前年同期に比べ32.2%増加し8,029億円となりました。

利益については、工事採算は低下しましたが、当社の大型投資開発プロジェクトの売上計上などもあり、経常利益は前年同期に比べ14億円増加し112億円となり、当上半期の純利益は52億円となりました。

また、中間配当金は、1株につき3円50銭といたしました。

なお、連結有利子負債の残高は、工事関係資金の立替増などにより、前期末に比べ201億円増加し3,718億円となりました。

通期の業績見通し

下半期は、金融危機の世界的な拡がりや、株式・為替市場の急激な変動などから、景気は後退局面が一段と強まるものと思われます。

建設業界においては、政府の経済対策が期待されますが、住宅・不動産投資は減退の傾向を強めるなど、建設市場は一層厳しさを増すものと予測されています。

このような経営環境のもと、第107期通期の連結業績は、売上高1兆9,500億円（前期比+2,649億円）、経常利益300億円（前期比-183億円）、当期純利益160億円（前期比-110億円）と、前期比増収減益を見込んでおります。

経営方針と重点施策

当社グループは、每期「経営3ヶ年計画」をローリングし、こうした経営環境の変化に迅速かつ強力に対処してきておりますが、引き続き、品質・安全の確保、コンプライアンスの徹底はもとより、技術開発力・技術提案力の強化、生産性の向上、トータルコストダウンの推進などに総力を挙げて取り組みます。併せて、投資開発・エンジニアリング各事業の着実な成長、グループ各社の競争力強化を推し進め、収益力の一層の向上に努めてまいります。

主な取り組みは以下のとおりです。

■ものづくり強化活動

当社の経営の根幹である、ものづくりの原点に立ち返り、生産体制の強化、「よいものづくり」のための「人づくり」(人材育成)、生産システム改革などの諸施策を実践し、お客様にとりまして「よりよいもの」をご提供していくこと、に全力を尽くします。

■建造物の「環境・安全・安心」

「シミズ・グリーンコード」をはじめとして、建造物の「環境・安全・安心」(CO₂削減、長寿命化、地震、異常気象、生態系への配慮など)への取り組みをさらに強化し、お客様や社会資本の価値向上に貢献します。

■CSR経営

将来の日本のものづくりを担う人材育成に寄与することを目的とした「シミズ・オープン・アカデミー」の開講、事業活動を通じた社会貢献・地球環境への配慮など、CSR経営を推進します。

以上のような取り組みを通じ、当社の経営姿勢、目指す企業像を表現したコーポレートメッセージ「子どもたちに誇れるしごとを。」に込めた想いを、役員・従業員全員が日常の諸活動の中で実践し、企業ブランドのさらなる向上を図り、全てのステークホルダーの皆様のご期待に応えてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き相変わりがませぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年12月

取締役会長

野村哲也

取締役社長

宮本洋一

当上半期の業績（当社単体）

受注（契約）高

当社単体の受注（契約）高は、前年同期に比べ0.3%増加し7,266億円となりました。その内訳は、建設事業93%、附帯事業7%です。

事業別にみますと、建設事業受注高は、建築工事が減少したことなどから、前年同期に比べ4.1%減少し6,776億円となりました。工事別内訳は、建築工事84%、土木工事16%であり、国内工事の発注者別内訳は、民間90%、官公庁10%です。

建設事業のうち、建築工事の受注高は、生産施設等の工事が増加しましたが、住宅、オフィスビル等の工事が減少したことなどから、前年同期に比べ7.5%減少し5,671億円となりました。

土木工事については、受注高は、前年同期に比べ17.8%増加し1,105億円となりました。

また、附帯事業の契約高は、前年同期に比べ314億円増加し490億円となりました。

受注工事の主なもの

●建築工事

シャープ株式会社	薄膜シリコン太陽電池工場建設工事
富国生命保険相互会社	大阪富国生命ビル新築工事
株式会社荏原製作所	（仮称）富津事業所建設工事
有限会社カスミガセキ・インベストメント	（仮称）霞が関三丁目計画に伴う既存建物解体工事及び新築工事

●土木工事

国土交通省	湯西川ダム本体建設工事
-------	-------------

売上高・利益

当社単体の売上高は、前年同期に比べ41.7%増加し7,152億円となりました。その内訳は、建設事業93%、附帯事業7%です。

事業別にみますと、建設事業の完成工事高は、工事進行基準適用に伴う完成工事高の増加により、前年同期に比べ34.4%増加し6,664億円となりました。

建設事業のうち、建築工事の完成工事高は、前年同期に比べ33.0%増加し5,942億円となりました。

土木工事については、完成工事高は、前年同期に比べ46.5%増加し721億円となりました。

また、附帯事業の売上高は、前年同期に比べ399億円増加し487億円となりました。

利益については、大型投資開発プロジェクトが当上半期に売上計上できたことなどから、経常利益は前年同期に比べ85億円増加し101億円となり、当上半期の純利益は58億円となりました。

また、有利子負債の残高は、工事関係資金の立替増などにより、前期末に比べ306億円増加し3,248億円となりました。

完成工事の主なもの

●建築工事

JTC コーポレーション	フュージョンポリス新築工事（シンガポール）
有限会社芝浦キャナル開発	芝浦アイランド ブルームタワー新築工事
有限会社コーラス・プロパティ	青山OM-SQUARE 新築工事
株式会社ヤマダ電機	高崎本社・LABI1 高崎新築工事

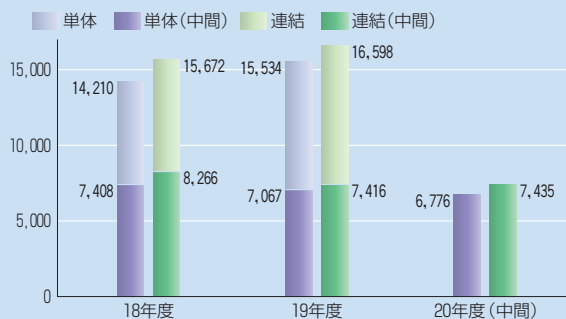
●土木工事

東日本旅客鉄道株式会社	吾妻線岩島・長野原間付替ハットトンネル新設工事
-------------	-------------------------

業績の推移（連結及び単体）

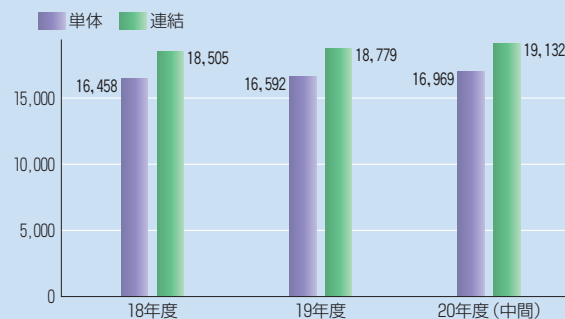
■建設事業受注高の推移

（単位：億円）



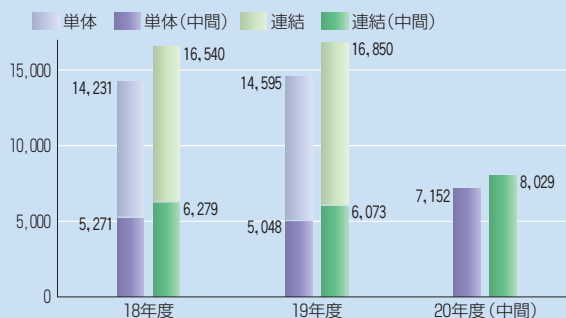
■総資産の推移

（単位：億円）



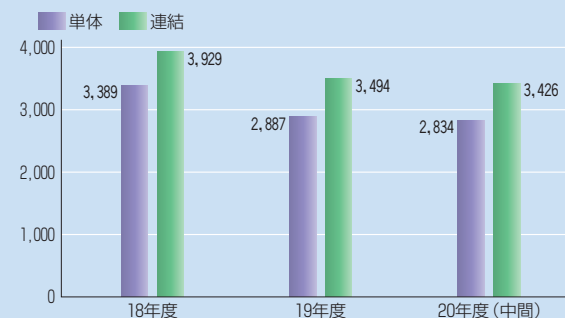
■売上高の推移

（単位：億円）



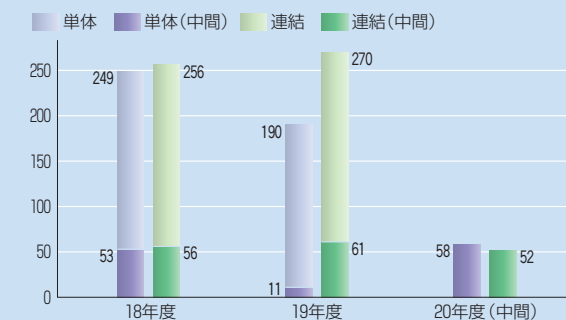
■純資産の推移

（単位：億円）



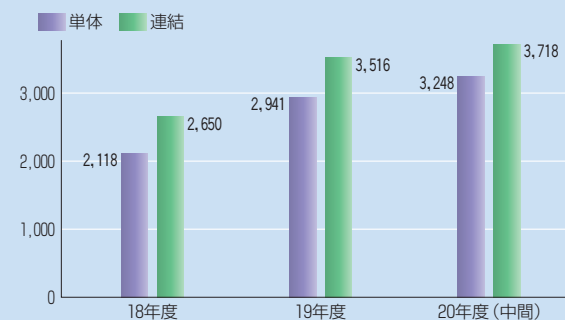
■当期(中間)純利益の推移

（単位：億円）



■有利子負債残高の推移

（単位：億円）



連結財務諸表

連結貸借対照表（要旨）

科 目	当上半期末 平成20年9月30日現在	前期末 平成20年3月31日現在	増 減
（資産の部）			
流動資産	14,355	13,796	559
現金預金	1,351	1,693	△ 341
受取手形・完成工事未収入金等	3,916	3,368	548
有価証券	—	450	△ 450
未成工事支出金	6,961	6,019	941
たな卸不動産	518	561	△ 42
その他のたな卸資産	459	472	△ 12
その他	1,166	1,247	△ 81
貸倒引当金	△ 18	△ 16	△ 2
固定資産	4,777	4,983	△ 206
有形固定資産	1,866	1,891	△ 25
無形固定資産	25	26	△ 1
投資その他の資産	2,885	3,064	△ 179
投資有価証券	2,739	2,926	△ 187
その他	216	211	5
貸倒引当金	△ 70	△ 72	2
資産合計	19,132	18,779	352

（資産の部）

有価証券、現金預金などが減少し、未成工事支出金、完成工事未収入金などが増加した結果、資産合計は1兆9,132億円となり、前期末に比べ352億円増加しました。

（単位：億円）

科 目	当上半期末 平成20年9月30日現在	前期末 平成20年3月31日現在	増 減
（負債の部）			
流動負債	13,220	12,787	433
支払手形・工事未払金等	4,118	4,445	△ 326
短期借入金	1,523	1,511	11
コマーシャル・ペーパー	850	500	350
1年内償還予定の社債	100	300	△ 200
未成工事受入金	5,396	4,733	662
完成工事補償引当金	39	34	4
工事損失引当金	330	212	118
その他	863	1,050	△ 186
固定負債	2,485	2,497	△ 11
長期借入金	1,245	1,205	40
退職給付引当金	570	575	△ 4
関連事業損失引当金	31	32	△ 0
その他	637	684	△ 46
負債合計	15,706	15,284	421
（純資産の部）			
株主資本	2,602	2,578	24
資本金	743	743	—
資本剰余金	431	431	△ 0
利益剰余金	1,440	1,414	26
自己株式	△ 13	△ 12	△ 1
評価・換算差額等	753	846	△ 92
少数株主持分	70	70	△ 0
純資産合計	3,426	3,494	△ 68
負債純資産合計	19,132	18,779	352

1株当たり純資産額 427.34円 435.81円

（負債の部）

工事関係資金の立替増に伴う有利子負債の増加などにより、負債合計は、1兆5,706億円となり、前期末に比べ421億円増加しました。

（純資産の部）

当期純利益の計上などにより利益剰余金は増加しましたが、株式相場下落に伴う評価・換算差額等の減少などにより、純資産合計は、3,426億円となり、前期末に比べ68億円減少しました。

備考：金額の億円未満は、切捨て表示しております。

連結損益計算書（要旨）

（単位：億円）

科 目	当上半期 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	前年同期 平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	増 減
売上高	8,029	6,073	1,955
完成工事高	7,091	5,474	1,616
開発事業等売上高	937	598	338
売上原価	7,586	5,638	1,948
完成工事原価	6,766	5,154	1,611
開発事業等売上原価	820	484	336
売上総利益	442	435	7
完成工事総利益	325	320	5
開発事業等総利益	116	114	1
販売費及び一般管理費	334	335	△ 1
営業利益	108	100	8
営業外収益	49	59	△ 9
営業外費用	44	61	△ 16
経常利益	112	97	14
特別利益	1	5	△ 3
特別損失	10	26	△ 15
税金等調整前当期純利益	104	76	27
法人税等	51	18	32
少数株主利益または損失(△)	0	△ 2	3
当期純利益	52	61	△ 9

1株当たり当期純利益 6.63円 7.80円

売上高は、工事進行基準適用に伴う完成工事高の増加などにより、前年同期に比べ32.2%増加し、8,029億円となりました。売上総利益は、工事採算は低下しましたが、当社の大型投資開発プロジェクトの売上計上などもあり、前年同期に比べ1.6%増加し、442億円となりました。経常利益は112億円、特別損益や法人税等を加減した上半期の純利益は52億円となりました。なお、特別損失には、株式相場の下落に伴う株式評価損9億円などを計上しております。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：億円）

科 目	当上半期 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	前年同期 平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	増 減
現金及び現金同等物の期首残高	2,143	1,650	493
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 903	△ 772	△ 131
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 48	△ 148	99
財務活動によるキャッシュ・フロー	172	351	△ 178
その他の増減額	△ 12	11	△ 23
現金及び現金同等物の増減額	△ 791	△ 558	△ 233
現金及び現金同等物の上半期末残高	1,351	1,092	259

営業活動によるキャッシュ・フローは、工事関係資金の立替増などにより、903億円の資金減少となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の増加、コマーシャル・ペーパーの発行などにより172億円の資金増加となりました。この結果、現金及び現金同等物の当上半期末の残高は、前期末に比べ791億円減少し、1,351億円となりました。

関係会社の状況

連結子会社 49社

●主要な連結子会社

清水総合開発株式会社
株式会社東京鐵骨橋梁
片山ストラテック株式会社
第一設備工業株式会社
株式会社ミルックス

持分法適用関連会社 13社

●主要な関連会社

日本道路株式会社

単体財務諸表

貸借対照表 (要旨)

科 目	当上半期末 平成20年 9 月30日現在	前期末 平成20年 3 月31日現在	増 減
(資産の部)			
流動資産	12,475	11,904	570
現金預金	1,071	1,209	△ 137
受取手形	233	196	37
完成工事未収入金	3,415	2,854	560
有価証券	—	450	△ 450
販売用不動産	204	306	△ 102
未成工事支出金	6,503	5,746	757
その他	1,059	1,152	△ 93
貸倒引当金	△ 14	△ 12	△ 1
固定資産	4,494	4,687	△ 193
有形固定資産	1,379	1,386	△ 6
無形固定資産	18	19	△ 1
投資その他の資産	3,096	3,281	△ 185
投資有価証券	2,591	2,777	△ 185
その他	574	576	△ 1
貸倒引当金	△ 70	△ 72	1
資産合計	16,969	16,592	377

(単位：億円)

科 目	当上半期末 平成20年 9 月30日現在	前期末 平成20年 3 月31日現在	増 減
(負債の部)			
流動負債	12,204	11,747	457
支払手形	329	334	△ 4
工事未払金	3,207	3,487	△ 280
短期借入金	1,432	1,312	120
コマーシャル・ペーパー	850	500	350
1年内償還予定の社債	100	300	△ 200
未成工事受入金	5,023	4,470	553
完成工事補償引当金	39	34	4
工事損失引当金	297	176	121
その他	924	1,131	△ 206
固定負債	1,929	1,957	△ 27
長期借入金	865	829	36
退職給付引当金	525	529	△ 3
関連事業損失引当金	32	32	—
その他	505	565	△ 60
負債合計	14,134	13,704	430
(純資産の部)			
株主資本	2,068	2,037	31
資本金	743	743	—
資本剰余金	431	431	△ 0
利益剰余金	902	869	32
自己株式	△ 9	△ 8	△ 1
評価・換算差額等	766	850	△ 84
純資産合計	2,834	2,887	△ 52
負債純資産合計	16,969	16,592	377

1株当たり純資産額 360.41円 366.97円

備考：金額の億円未満は、切捨て表示しております。

損益計算書（要旨）

（単位：億円）

科 目	当上半期	前年同期	増 減
	平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	
売上高	7,152	5,048	2,104
完成工事高	6,664	4,959	1,704
附帯事業売上高	487	88	399
売上原価	6,801	4,758	2,042
完成工事原価	6,389	4,681	1,708
附帯事業売上原価	411	77	333
売上総利益	351	289	61
完成工事総利益	274	278	△ 4
附帯事業総利益	76	10	65
販売費及び一般管理費	271	272	△ 0
営業利益	79	17	62
営業外収益	59	53	5
営業外費用	37	55	△ 17
経常利益	101	16	85
特別利益	1	4	△ 2
特別損失	10	26	△ 15
税引前当期純利益	92	△ 6	98
法人税等	33	△ 17	51
当期純利益	58	11	47
1株当たり当期純利益	7.46円	1.45円	

◆中間配当について

- 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額
当社普通株式1株につき金3円50銭 総額2,752百万円
- 剰余金の配当が効力を生じる日
平成20年12月9日

受注（契約）高・売上高・繰越高の内訳

（単位：億円）

区 分	前期繰越高	当上半期 受注(契約)高	当上半期 売上高	次期繰越高
建設事業				
建 築	13,617	5,671	5,942	13,345
土 木	5,080	1,105	721	5,464
計	18,697	6,776	6,664	18,809
附帯事業	494	490	487	497
合 計	19,192	7,266	7,152	19,306

建設事業受注高の内訳

（単位：億円）

区 分	当上半期	前年同期	増 減
	平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	
建 築			
国 内	5,243	5,771	△ 528
海 外	427	357	69
計	5,671	6,129	△ 458
土 木			
国 内	1,065	604	460
海 外	40	333	△ 292
計	1,105	938	167
合 計			
国 内	6,308	6,376	△ 68
海 外	468	691	△ 223
計	6,776	7,067	△ 291

第二の創業の地へ

京橋に本社移転を計画

当社は、東京都中央区京橋の旧本社所在地に、最新の建設技術・環境技術の粋を集めた、最先端のオフィスビルを建設し、2011年秋、本社を移転する計画をしています。

京橋と当社の関係

京橋は、当社が1903年に日本橋本石町から本社を移転してから、90年近くもの長きにわたり拠点としてきた縁の深い土地です。現在の芝浦本社（シーバンスS館）へは、社業の拡大とともに分散した事業所を集約するため、1991年に移転しました。今回、都市再生特別地区制度の適用を受け、京橋の所有地を一体として有効活用することが可能となり、経営の効率化を図るため、再び京橋への移転を計画しました。

経	1903年	京橋（南鞘町）本店が竣工
過	1923年	関東大震災で本店焼失
	1932年	京橋本店復興
	1991年	芝浦本社へ移転
予	2009年	新本社着工
定	2011年秋	同竣工・本社移転



1903年の本店



1932年の本店（写真右）

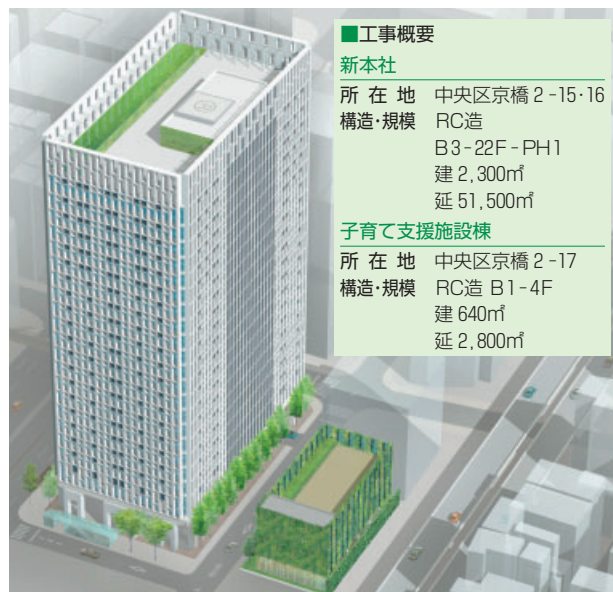


1960年増築後の本店

新本社のテーマは「都市再生」「環境」「公共貢献」

◎超環境型オフィスの創出

外装窓面に太陽光発電パネルを取付け、太陽光により昼間の照明エネルギー全てを賄うことなどで、CO₂の50%削減（東京都のオフィス平均値比）を目指します。



■工事概要

新本社

所在地	中央区京橋2-15・16
構造・規模	RC造 B3-22F-PH1 建2,300㎡ 延51,500㎡

子育て支援施設棟

所在地	中央区京橋2-17
構造・規模	RC造 B1-4F 建640㎡ 延2,800㎡

◎緑豊かな都市空間を創造

最新の緑化技術により、建物の壁面や屋上を大胆に緑化し、敷地面積の約7割を緑で覆います。

◎都市の安全性・利便性を向上させる公共貢献

都営地下鉄宝町駅と都営宝町駐車場に新しい出入口やエレベーター等を設置し、バリアフリー化を行います。

◎地域の活性化に向けたキーステーション

地域のニーズに応える子育て支援施設や、災害時には防災活動拠点となる地域交流施設を設置し、帰宅困難者への支援や防災備蓄品の供給を行います。

芝浦本社の今後

行政はじめ芝浦地区の皆様にはご愛顧いただいておりますが、移転後は、主に土地・建物所有者として地域に貢献していくことを考えています。

CSRへの取り組み

将来のものづくりの担い手を育成

「シミズ・オープン・アカデミー」開講

当社は、青少年を対象に、「ものづくり」と「建設」をテーマにした常設の公開講座「シミズ・オープン・アカデミー」を開講しました。本講座は、創業以来200余年、ものづくりに携わる企業として、将来のものづくりを担う人材の育成に寄与することを目的としています。

「ものづくり」の楽しさを伝えたい

プラモデル、お菓子、秘密基地…。子どもの頃に味わったものづくりの楽しさは、大切な思い出となって誰の心にも残っているのではないのでしょうか。そうした楽しさを、街づくりや建物づくりという視点から、青少年の皆さんにもっと伝えていきたい。そして、



多くの皆さんに将来の日本のものづくりを担ってもらいたいという想いから、本講座を立ち上げました。

多彩な講座と体験プログラム

「シミズ・オープン・アカデミー」では、巨大な建造物の中に隠れた思いがけない技術、植物や動物のことを考えた街づくり、地球環境を守るための様々な工夫など、新たな発見や驚きに出会えるよう、多彩な講座と体験プログラムを用意しています。当社技術研究所（東京都江東区）で行う「テクニカルツアー」は、月15回、年間を通じて開催します。その内容は、技術講座と実験施設の見学です。技術講座は、「小学生向け」「中学・高校生向け」及び「大学生・専門家向け」と3つのレベルに分かれており、受講者は40の技術テーマから希望のテーマを選ぶことができます。テクニカルツアーへの参加は、ホームページ等で随時受付けています。

お申し込み・お問い合わせ

受講を希望される方は、事前にお申し込みください。

【TEL】03-3820-5557 【FAX】03-3643-7260

【ホームページ】<http://www.shimz.co.jp/theme/soa/>

【メールアドレス】open-academy@shimz.co.jp

当社提供の科学番組がスタート 巨大ロボット実現の可能性に迫る新番組「ロボつく」

番組のねらいは、ロボットづくりを通じて「科学の子」を生み出すこと。毎回、ロボットに関連するテーマを設定し、その分野の専門家が最先端のロボット技術を分かりやすく解説するとともに、ロボット開発を手掛ける企業の「ものづくり」の現場を訪ね、巨大ロボット実現の可能性を調査します。

「空想科学バラエティ ロボつく」

テレビ東京系列 毎週金曜日 夕方5時30分～6時



当社技術研究所本館を使って行われたロケの様子



JR高崎駅前に巨大な全容を現したヤマダ電機 高崎本社・LABI 1 高崎



1階にある本社エントランス。ここからエレベーターで10階本社ロビーへ向かう



吹き抜け（10～12階）になっている本社ロビー。
10階奥でメーカー各社との商談が行われる

■工事概要

所在地	群馬県高崎市栄町1-1
発注者	株式会社ヤマダ電機
設計・監理	当社
工期	2007年1月～2008年6月
構造・規模	S造、一部RC・SRC造 B2-12F-PH2 建8,271㎡、延85,950㎡

当社の事業の根幹をなしているもの…それは「きちんとしたものを作って、お客様にお引き渡しする」こと。ものづくりは当社の原点です。

今回は、今年7月にオープンしました「ヤマダ電機 高崎本社・LABI 1 高崎」における「シミズのものづくり」についてご紹介します。

ヤマダ電機 高崎本社・LABI 1 高崎 のご紹介

7月11日、高崎駅の東口に新たなランドマークとなるヤマダ電機 高崎本社・LABI 1 高崎（都市型の大型店舗を併設）がオープンしました。建設地は高崎駅の眼前、駅から徒歩0分という好立地。しかも、駅の2階（改札階）から店舗まではペデストリアンデッキで結ばれています。

店舗の屋内外に設けられたイベントスペースでは、地元のお祭りやスポーツ教室、ミニコンサート、フリーマーケット等の様々な催しが毎週企画されており、多くの老若男女で賑わっています。

徹底したモジュール化で「レス・イズ・モア」を実践

この建物は、地下13m、幅120m、奥行き60m、高さ60mという巨大複合施設。お客様の本社、売り場、駐車場など、様々な機能を有しています。

設計にあたっては、顧客満足度を高めるため、それぞれの機能と、その使われ方を徹底分析しました。時代の変化に対応して自由な使い方ができるユニバーサル・スペースの考え方で、建物のモジュール化・ユニット化を推進しました。これにより部品・部材の種類を少なくし、生産性と品質・建物の完成度を向上させるという、まさに「レス・イズ・モア^{*}」を実践、実証できたと考えます。



上席設計長 榎澤壽春

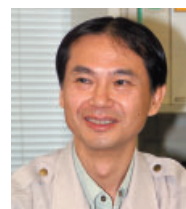
※レス・イズ・モア (Less is more.) : より少ないことは、より豊かなこと。20世紀のモダニズム建築を代表するドイツの建築家 ミース・ファン・デル・ローエの言葉。

超短工期の実現と安全確保で顧客満足度を向上

お客様からいただいた課題の一つが超短工期の実現。これに応えるために、工事では浅間山の火山灰が堆積した超軟弱地盤をオープンカットし、90,000㎡の土砂を搬出した後、変則的な新地下工法を採用して工期の短縮に努めました。

また、より優れた資材を幅広く求めるため海外調達にも力を入れました。例えば、防水シートは米国ペンシルベニアまで出向き、自らの眼で確認をしたうえで調達しています。

一方、安全面では、新幹線の営業線から10mと離れていない現場のため、資材の風散・落下防止には特に注意を払い、事故防止に努めました。関係者の協力のもと、無事、お客様にご満足いただける建物をお納めすることができ、ほっとしています。



建設所長 山田正洋

若手社員も奮闘

昨年4月の入社後、約一ヶ月の研修を終えて、この大型現場に赴任しました。初めは、右も左も分からず不安でした。

先輩社員から「初歩的な質問ができるのは新入社員の時だけ」とアドバイスを受け、以来、徹底的に質問し続けました。もちろん、まずは自分で調べます。調べて分からなければ、先輩社員はもちろん、職人さんに聞く。少々しつこく感じたようで、職人さんから疎んじられたこともあります。もののづくりの第一線に立つ職人さんと密にコミュニケーションすることで、現場に関する多くのことを学ぶことができたと思います。

職人さんたちが現場を離れる際、「また10年後に会おう」「工事長になったら呼んでくれ」とかけてくださった言葉には万感胸に迫るものがありました。



施工担当 永田真也

会社概況／株式の状況

(平成20年9月30日現在)

創業 文化元年(1804年)
 資本金 743億円
 売上高 1兆6,850億円(連結, 平成20年3月期)
 代表者 取締役社長 宮本 洋一
 社員数 12,100名(当社グループ, 平成20年3月末比107名増)
 9,058名(単体, 平成20年3月末比132名増)

主要な営業所等

(平成20年10月1日現在)

本社 東京都港区芝浦一丁目2番3号
 東京建築第一事業部(東京都港区) 関東支店(さいたま市)
 東京建築第二事業部(東京都港区) 名古屋支店(名古屋市)
 東京建築第三事業部(東京都港区) 広島支店(広島市)
 横浜支店(横浜市) 九州支店(福岡市)
 千葉支店(千葉市) 土木東京支店(東京都港区)
 大阪支店(大阪市) 土木横浜支店(横浜市)
 神戸支店(神戸市) 海外支店(シンガポール)
 四国支店(高松市) 海外土木支店(東京都港区)
 北海道支店(札幌市) 投資開発本部(東京都港区)
 東北支店(仙台市) エンジニアリング事業本部(東京都港区)
 北陸支店(金沢市) 技術研究所(東京都江東区)

●海外営業網

大連	バンコク	アンマン
上海	クアラルンプール	トルン
広州	シンガポール	ブダペスト
香港	ジャカルタ	ブラハ
台北	ダッカ	ルサカ
マニラ	ニューデリー	ニューヨーク
ハノイ	タシセント	アトランタ
ホーチミン	ドバイ	ティファナ

株式の状況

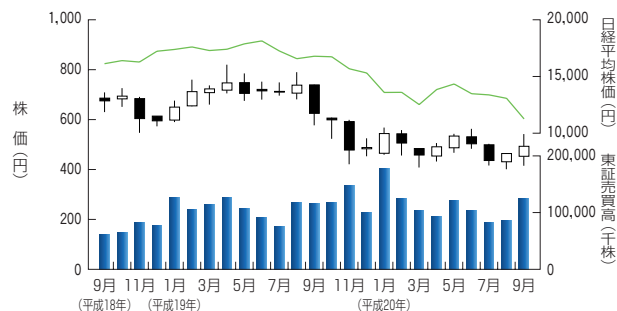
発行可能株式総数 1,500,000,000株
 発行済株式の総数 788,514,613株
 株主数 52,412名

大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
清水地所株式会社	60,129	7.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	48,136	6.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	41,957	5.3
社会福祉法人 清水基金	38,100	4.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	22,109	2.8
清水建設持株会	19,188	2.4
財団法人 住宅総合研究財団	17,420	2.2
株式会社 みずほコーポレート銀行	16,197	2.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	15,265	1.9
第一生命保険相互会社	10,564	1.3

※出資比率は、自己株式(1,959千株)を控除して計算しております。

株価の推移



株主メモ／お知らせ

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (郵便物送付先及び 電話お問合せ先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

(ご注意)

株券電子化後、株主様の各種手続きは、原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていたこととなるため、株主名簿管理人の「取次所」は、株券電子化の実施時をもって廃止となります。

公告掲載方法 電子公告により行う。

公告掲載 URL (<http://www.shimz.co.jp/>)

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

株式に関する各種手続き 住所(町名地番の変更を含む)、配当金受領方法等に変更がありました場合は、株主名簿管理人へお届けください。なお、証券保管振替制度により株券を証券会社に預託されている場合には、お取引の証券会社にお申し出ください。

(各種変更用紙のご請求)

・ 電話によるご請求

0120-244-479 (フリーダイヤル、自動音声応答サービス)

・ ホームページ

<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

* 株券電子化後は、特別口座に登録された株式のお手続き用紙のみとなります。

株券電子化後に関するお知らせ

「ほふり」に預託されていない株式について

● 特別口座への登録

ご所有の株式は、当社が開設する特別口座に登録されます。登録のご案内は、平成21年2月頃、届出住所宛に送付予定です。

● 各種手続き

特別口座に登録された株式の各種手続き(証券会社の口座への振替請求、住所変更、配当金の振込指定等)は、平成21年1月26日から、以下の連絡先にて受付を開始します。

● 単元未満株式買取請求・買増請求の受付停止期間

[買取請求] 平成21年1月5日～平成21年1月25日

[買増請求] 平成20年12月12日～平成21年1月25日

連 絡 先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル) ※三菱UFJ信託銀行の全国本支店でも受付いたしますので、ご利用ください。
-------	---

すでに「ほふり」に預託されている場合

● 各種手続き

各種手続き(住所変更、配当金の振込指定、単元未満株式の買取請求・買増請求等)は、お取引の証券会社にて受付しますので、お問合せください。

● 単元未満株式買取請求・買増請求の受付停止

株券電子化前後の一定期間、証券会社は請求受付を停止する予定です。具体的な日程は証券会社により異なる場合がありますので、お取引の証券会社にお問合せください。

《株主名簿の文字について》

当社の株主名簿は、振替機関(証券保管振替機構)が指定する文字・記号により記載します。そのため、常用漢字に含まれない文字等は、文字を置換えのうえ、株主名簿に登録します。今後、株主様にお送りする通知物の宛名は置換えられた文字となりますので、ご了承ください。

(例)「高」→「髙」

ホームページのご案内



<http://www.shimz.co.jp/>

当社ホームページでは、「株主・投資家情報」をはじめ、「実績・技術ソリューション」、「CSR活動」など、様々な情報を掲載しております。是非、ご覧ください。

表紙写真
青山OM-SQUARE（東京都港区）
設計／当社

清水建設株式会社

〒105-8007 東京都港区芝浦一丁目2番3号

TEL 03-5441-1111（代表）

<http://www.shimz.co.jp/>

